

<ポイント版> ぎふ経済レポート（令和4年11月分）

【製造業】

○製造業は、9月の鉱工業生産指数は前月比▲8.1%となった。ヒアリングでは、仕入れコスト上昇に歯止めがかからず、2回目の値上げを検討しているとの声や、材料や部品不足で生産が伸び悩んだため売上は減少し、加えてコスト上昇により利益も減少しているとの声、更には、自動車業界の半導体不足は改善傾向にあるものの、この影響は長期化するのではないかと懸念する声も聞かれた。

【地場産業】

○地場産業は、9月の鉱工業生産指数は、木材・木製品、窯業・土石、繊維工業、家具で低下した。ヒアリングでは、原材料費や電気代が前年比2倍以上となる中、価格転嫁は希望額の3割程度の転嫁にとどまっており、利益を圧迫しているとの声や、あらゆるコストが上昇する中、これまで販売価格を据え置きしていたが、依然として状況が好転せず、来春より値上げを実施するとの声も聞かれた。

【設備投資】

○設備投資は、10月の全国の金属工作機械受注額は、前年同月比▲5.5%となった。ヒアリングでは、脱炭素を図るための設備へ切り替えを行うとの声や、作業合理化や新規事業のための新規設備を導入するとの声が聞かれた一方で、設備の更新を行いたい、原材料高で設備価格が高騰しており、補助金を使用しても導入は難しいとの声も聞かれた。

【個人消費】

○個人消費は、10月の販売額は、家電大型専門店、百貨店・スーパー、コンビニ、ドラッグストアで増加し、全体で前年同月比1.5%増加となった。ヒアリングでは、価格転嫁はできているものの、値上げにより消費者の買上点数が減少しているとの声や、生鮮食品スーパーの売上は好調であるものの、新型コロナ感染者数の増加を受け、飲食店やファッション店舗の売上は低調との声が聞かれた。

【観光】

○観光は、10月の観光客数、宿泊者数は令和元年同月比▲17.6、▲27.0%となった。宿泊施設からのヒアリングでは、全国旅行支援のおかげで宿泊者が増加しているとの声や、訪日外国人観光客の予約が増え始めているとの声が聞かれた。

【資金繰り】

○企業の資金繰りは、10月の制度融資実績は、件数、金額とも18ヶ月連続で前年同月比で減少した。金融機関からは、一定の価格転嫁はできているものの、コスト上昇のピッチが速く、転嫁が追い付いていないとの声や、小規模事業者はなかなか価格転嫁が進んでいないと懸念する声が聞かれた。

【雇用】

○雇用面は、10月の有効求人倍率は1.68倍と14ヶ月連続で1.50倍を超えた。ヒアリングでは、募集をかけても応募が少なく、人手不足を60歳以上の再雇用で補っているとの声や、現在は減産体制のため人手不足感がないが、今後受注が正常化した際には人手不足に陥るとの声が聞かれた。

【景気動向】

9月の景気動向指数（一致指数）は前月比▲0.6ポイント、10月の中小企業の景況感と同±0ポイントとなった。